

農産部会圃場試験の経過報告

Radixの会主任研究員 成田国寛

Report

11月に入り、事務所までの歩道沿いにあるイチヨウやプラタナスも少しづつ色づくようになりました。市内では山まるごと紅葉といった贅沢を味わうことはできませんが、それでも小さな秋を見つけると何かと楽しいものです。

さて、ニュースレター第6号にて、お伝えしましたように、農産部会では農産物の品質を高めるための栽培技術に関する研究（圃場試験）をはじめました。その途中経過についてご報告します。

■有機農産物の栄養は？

消費者の環境問題への意識向上や安全性への関心の高まりから、年々有機農産物の需要は増えています。また、一般流通している農産物に旬が感じられなくなり、微量要素を含む栄養分も少なくなっているのではないかとの懸念から、一方で栄養成分の高い農産物も求められてきています。

以前から、有機栽培など土づくりを行ってきた農産物は栄養成分も高いと言われてきましたが、それを裏付ける継続的な研究は少なく事例にとどまっているのが現状です。栄養の面からも有機栽培が優位であると示されたならば、さらに需要が高まるものと思われれます。

そこで堆肥と有機質肥料で土づくりをしながら育てた野菜と、化学肥料だけで育てた野菜、果たしてどのような差があるのか。そのような基本的なところを押さえるためにも、予備的な試験をはじめることになりました。

■強力な助っ人

栄養成分の分析に関して、不慣れ

なこともありやや心配していたところ、強力な助っ人が現れました。女子栄養大学の辻村卓先生です。野菜中の栄養についての研究を長年行い、ビタミン等を多く含む「旬の野菜」の大切さを説いています。

今年度、辻村研究室と提携できたことにより、収穫された野菜の栄養成分分析も信頼性が高まります。



試験圃場の準備をした直後

■倉田さん登場&試験スタート

前回、栃木太陽の会の信末さんの圃場にて試験をはじめるとお伝えしましたが、試験内容の変更等により、あゆみの会の若手生産者、倉田九豪さんが管理する圃場で行うことになりました。（倉田さんは、オクラやツルムラサキ・ホウレンソウなどの野菜類を主に栽培しています）

10月初旬より圃場準備を始め、10月末にホウレンソウ（品種：アトラント）とコマツナ（楽天）をそれぞれ播種しました。圃場は品目毎に、化学肥料区（アラジン 14-14-14）、有機質肥料区（発酵鶏糞+菜種油かす）、有機質肥料+堆肥（1t/反）区、有機質肥料+堆肥（2t/反）区に4つに分け、



試験にご協力いただいている有機栽培あゆみの会若手生産者の倉田九豪さん

肥料中の窒素成分で同一になるように調整してあります。（堆肥成分は除く）そして、それぞれの区でどのような差がでるのかを経時的に観察していきます。

今回は、倉田さんのご協力を得ながら圃場作業をしてきたのですが、雨には泣かされました。10月上旬に一度播種したのですが、タイミング悪く発芽時期に大雨、圃場は水びたしとなり、発芽不良……そして、再度の圃場整備とまき直し。なかなか思うようにはいきませんが、一歩一歩進めていきたいと思えます。

12月にはコマツナが、1月にはホウレンソウが収穫され、それぞれ分析する予定です。その途中にも生育調査などを随時行う予定です。結果については、ご期待ください。



プロフィール

成田国寛

1966年生まれ。カゴメ総合研究所、らでいっしゅぼーや(開発部門)およびJ基準委員会事務局担

当)、ジャパンバイオファーム勤務を経て2001年3月よりRadixの会農産部会主任研究員